

アウトリーチとしての 高校内居場所カフェ

特定非営利活動法人あそと / 大阪府立高校SSW

石原昂侑

高校内居場所カフェとは？

- 高校内の空き教室や図書室、食堂でカフェを行う。
- 誰でも利用できる場所
- 学校内のサードプレイス











活動の頻度・方法

府立野崎高校

月2回(年20回) **図書室**を利用し放課後に実施。

府立茨田高校

月2回(年20回) **食堂・大会議室**を利用し放課後に実施。

大阪府教育庁の課題を抱える生徒フォローアップ事業として実施。

3つのコンセプト、カフェの狙い

- ①安心・安全の場所
- ②文化の共有
- ③個別のソーシャルワーク

卒業生への支援

仕事もして家もある状態



労働

失業、不安定雇用、
労災、定収入など

家族

離婚、DV、虐待など

住居

家賃滞納、ローン破綻、
会社の寮を出た、など

金銭

貯金切れ、借金、など

HELP!

と言ってもらうためのつながりの維持

- ・卒業生カフェ
- ・SNSを利用した弱いつながりの維持
- ・教員経由での相談受付
- ・卒業生のボランティア参加

仕事も家もない状態

学校ではケアが行われている

在学中

- ・しんどそうな顔をしていると、「どうした？」と聞いてもらえる。
- ・知っている大人を経由して支援に繋がることができる。
- ・人と関わる機会がある。



卒業後

- ・自分から「困っています。」という必要がある。
- ・初めての相談では1人で知らない人のところに行くことになる。
- ・就労から外れると、社会との関係が激減する場合がある。

カフェを5年間実施してみても

- カフェは**万能**ではない
- 自団体の**得意/不得意**を把握しておく
- ターゲットと**物理面**

学校との関係作りのここまでの流れ

導入期

- 個の教員のマンパワー
- 常連生徒ができる
- 学校の状況を知る

浸透期

- 生徒の変化が見られる
- カフェの意義が見えてくる
- 教員に使ってもらえ始める
- 情報共有会議への参加

定着期

- 目的の共有
- 教員からの相談
- 担当教員交代への対応

外部団体が学校に馴染んでいくために

- それぞれの目的に配慮する
- 使いやすい存在になる
- 学校では取り組めないところに取り組む

連携していくために意識していること

- 協力者/理解者を探す
- 転勤への対応
- 生徒の利益の見える化